



筑

紫

路

発行
自衛隊福岡病院
春日市小倉東1丁目
61番地
Tel 092-581-0431
ホームページ



「着任の挨拶」

陸将補 川口 雅久



この度、令和三年三月二十六日付で第二十五代自衛隊福岡病院院長兼て春日駐屯地司令を拝命した川口陸将補です。

自衛隊福岡病院は、歴代病院長をはじめ諸先輩方のご尽力及び

病院職員諸官のたゆみない努力により着実に充実発展を重ね、名実ともに西部方面隊地区における自衛隊医療の中核として輝かしい伝統を築いてきました。さらに平成十八年十月からは保険医療機関となり、一般外来患者数も年々増加し、地域に根付いた医療機関としても着実に成果を上げています。新型コロナウイルス感染症対応においても地域医療の一翼を担うとともに、職域病院としての役割も果たしています。

このような自衛隊福岡病院に病院長として勤務できることは、無上の喜びとするところであり、改めてその重責を深く認識し身が引き締まる思いです。微力なが

ら関係各位のご協力をいただいて病院のより一層の充実発展のため全力を傾注する所存です。

現在、わが国を取り巻く安全保障環境は厳しさを増し、不安定要因が更に顕在化し、また、領域横断作戦の実現と南西地域での防衛態勢強化を図っている重要な時期です。このような中、

陸上自衛隊の「救命ドクトリン」の実現を目標とした「衛生支援態勢の更なる実効性向上」のために、地域の医療に貢献するとともに、西部方面隊における中核型基幹病院としての任務を完遂することは、自衛隊衛生に課された必成課題であります。

一方、防衛省は衛生機能強化の一環として、自衛隊病院の拠点化・高機能化を進めており、令和三年度は自衛隊別府病院と閉院、那覇病院の陸上自衛隊としての新編開院があり、この事業を最大限支援するとともに、近い将来の当病院の建替事業を更に推し進めていかなければなりません。

そこで、病院長着任にあたり、統率方針を、「あるべき姿の追求」としました。わが国を取り巻く安全保障環境がさらに厳しさを増し、かつ、感染症を含む多様な自然災害等への対応も必要とされる中、防衛省・自衛隊に対する国民からの期待は

増々大きくなっています。その期待に応えるには、「自衛隊福岡病院」という組織が、現在そし

て未来において、どうあるべきなのかを常に念頭に置いて考え、行動することが重要だからです。

要望事項は、「適時・適切な業務の遂行」としました。そのために、平素から事態等への対応も念頭に置き、継続的に任務分析を実施し、行動に当たっては熟慮断行してもらいたいと思

います。組織として、個人としての何をなすべきかを、時期に合わせ考察し、対応策を果敢に決断し、肝要だと考えるからです。

統率方針

「あるべき姿の追求」

「適時・適切な業務の遂行」

業務の遂行

コロナウイルスワクチン接種

令和三年三月十七日から新型コロナウイルスワクチン接種を開始しました。

医療従事者等に対する優先接種は医療提供体制の確保等の為に国策として実施されています。

接種に際し、恒常的な診療体制の確保及び三密の防止の観点から細かくグループ分けをし実施しました。

接種者にアナフィラキシー等の重度なアレルギー反応もなく終えることができました。



防疫大看護四期生着隊

令和三年三月六日、防疫医科大学校看護学科を卒業し、八日、福岡病院に七名が着隊しました。

履修前教育を終了し幹部候補生学校（前川原）のNB課程に入校中です。五月二十六日卒業後、病棟配属予定です。

看護科幹部候補生として、自衛官と看護師両方の識能を深化させ、切磋琢磨し続けることをおおいに期待しています。どうぞよろしくお願いたします。



准看護学院卒業式

准看護学院（学院長・濱地一佐）は令和三年三月四日、第四十四期初級陸曹特技課程「准看護師」の卒業式を行いました。

学生は二年間の教育を学院長の要望事項である「一流を目指し切磋琢磨せよ」を胸に全課程修了しました。卒業後は救急救命士課程へ入校、北は宇都宮駐屯地から南は那覇駐屯地へ部隊配属と全国で活躍する衛生救護士曹となります。



在校生より送辞を受ける卒業生

准看護学院入校式

准看護学院（学院長・山元二佐）は西部方面総監部医務官井上一佐をご来賓に迎え、令和三年四月一日、第四十六期初級陸曹特技課程「准看護師」の入校式を行いました。

今年度から陸曹学生が入校するという准看護学院にとって新たなスタートとなります。また学生数も増員となり今年度は二十七名が入校しました。学院長の「自ら考え、個として自立せよ」という要望事項を胸に二年間の教育に挑んでいきます。



参列者と記念撮影

新部長等の紹介

診療技術部長兼
麻酔科部長

1等陸佐 濱地 理通

総務部長



2等陸佐 山内 康彦

新しく診療技術部長になりました濱地です。診療技術部は放射線、臨床検査、理学療法からなり、現代の専門化細分化された医療技術を正確に提供します。皆様に質の高い安心できる医療を提供できるように日々精進しております。よろしくお願いいたします。

衛生資材部長



2等陸佐 小野陽輔

この度、北部方面総監部人事より衛生資材部長として着任しました。衛生資材部一同の力を結集し、平素の診療に係る物的基盤の充実はもとより、病院建替えを見据えた医療用備品等の取得準備の推進、国難である新型コロナウイルス感染症の拡大防止・収束へ貢献できるように尽力いたします。ご指導・ご協力の程よろしくお願いいたします。

整形外科部長兼
准看護学院長

2等陸佐 山元 浩治

この度、自衛隊阪神病院総務部長より着任いたしました。総務部長として春日駐屯地・自衛隊福岡病院の歴史と伝統を重んじつつ、事の目標・目的を常に念頭に置き、熟考断行し、皆様から更に信頼される駐屯地・病院となるべく邁進する所存でありますので、これまでと変わらぬ御指導御鞭撻を賜りますよう宜しくお願いいたします。

この度、准看護学院長に上番しました山元二佐です。これまででは運動器分野の講義のみの担当でしたが、本年度からは学院長という立場で学生と関わる事となります。学生が吹き込んでくれる若さあふれる波に乗り、ともに励み成長して行きたいと思えます。学生ともどもご指導ご協力、宜しくお願い致します。

定年退職者の紹介

《令和二年六月四日付》
一等陸佐 阿部 浩
《令和二年七月二十七日付》
二等陸佐 梅崎 奈美
《令和二年九月十八日付》
二等陸佐 小松 輝久
《令和三年一月二十二日付》
三等陸佐 秋吉 琴美
《令和三年二月十日付》
三等陸佐 柴山 晴彦
《令和三年三月七日付》
二等陸曹 松本 盛一
《令和三年三月三十一日付》
行(三) 吉村 基作
《令和三年四月二日付》
三等陸尉 斉藤 賢孝

人事往来

〈転出者〉

《三月十五日付》
企画室 三等陸佐 穴田 慎次郎
総務部 (総務課) 一等陸尉 武田 幸子
二等陸曹 濱田 薫
(管理課) 一等陸曹 福永 良一
(医事課) 一等陸尉 西 孝介
診療科 三等陸佐 熱海 啓一郎
診療技術部 (部長) 一等陸佐 井上 裕悦
放射線技術課 三等陸佐 岩崎 功
二等陸曹 大石 正文
二等陸曹 若松 元太
二等陸曹 中山 了伍

長年の国防勤務お疲れさまでした。

〈転入者〉

(研究検査課) 陸曹長 脇田 重則
(衛生資材部) 二等陸曹 宮坂 佳子
(衛生資材課) 一等陸尉 古賀 博
看護部 一等陸尉 下園 明子
一等陸尉 甲斐 美希
一等陸尉 釘村 嘉代子
一等陸尉 藤江 由子
二等陸尉 山本 隆二
二等陸尉 秋穂 朋花
三等陸尉 入江 美憂
三等陸尉 執行 優利花
《三月二十六日付》
福岡病院長兼春日駐屯地司令 陸将補 松本 泰憲
総務部 (部長) 二等陸佐 小川 和明
衛生資材部 (部長) 二等陸佐 笠置 剛
《四月一日付》
総務部 (総務課) 行(四) 田中 賢
(会計課) 行(三) 中野 英樹
(医事課) 行(三) 神宮 順子
(給食課) 行(二) 白石 さおり
医(三) 鈴木 文子

(管理課) 一等陸曹 中山 雅矢
(医事課) 二等陸尉 江口 茂
診療科 一等陸尉 前岳 葉子
診療技術部 (放射線技術課) 三等陸佐 衛藤 利弘
二等陸曹 室屋 大輔
(研究検査課) 准陸尉 奥村 昭洋
衛生資材部 (衛生資材課) 陸曹長 中岸 啓治
看護部 陸曹長 甲斐 竜二
三等陸佐 松田 睦美
一等陸尉 馬場 留美子
二等陸尉 丹 奈津子
三等陸尉 尾崎 裕美
陸曹長 岸副 吉晃
准看護学院 三等陸曹 宮下 幸裕
《三月二十六日付》
福岡病院長兼春日駐屯地司令 陸将補 川口 雅久
総務部 (部長) 二等陸佐 山内 康彦
衛生資材部 (部長) 二等陸佐 小野 陽輔
企画室 行(二) 奥村 千裕
総務部 (総務課) 行(四) 江藤 将
行(二) 栗山 啓介
(会計課) 行(三) 江口 和則
(医事課) 行(二) 梅崎 木綿子
(給食課) 行(二) 椎屋 美津子
放射線技術部 医(二) 福田 由佳
放射線技術課 (放射線技術課) 医(三) 瀬戸 誠